

「(仮称) 町田市いきいき長寿プラン2 1-2 3」 中間報告以降にいただいた委員からのご意見等

委員からのご意見等の概要	市からの回答
<p>要介護1～5の世帯の約2割には複合的課題がある。これは高齢者を含む生活全体を覆う問題で、他の部局と連携が必要に思います。</p>	<p>8050 問題やダブルケア等、高齢者分野だけでは解決が難しい複合的な課題については、高齢者支援センターと医療や障がい、子どもといった多分野の関係機関が協力して対応し、課題解決を支援します。</p>
<p>市民ニーズ調査における、「介護や子育てによる負担等の世帯における困りごと（要介護1～5）での「無回答」や健康とくらしの調査における「あなたの住む地域にある支援と、あったらよいと思う支援」での「ない」や「無回答」は問題なしとするのではなく、注意をして受け止めていく必要があると思います。</p>	<p>世帯における困りごとに「無回答」としていても、ご本人が気づかないままリスクを抱えていたり、周囲には言いづらいという気持ちから顕在化しない場合等が考えられます。各世帯が抱える問題に対しては、大きくなる前に早い段階で支援を開始することが重要です。市では、各世帯への個別支援はもちろん、地域の見守り等により高齢者の異変に早期に気付くことができる地域づくりや、高齢者支援センターと地域との顔の見える関係の構築を併せて進めてまいります。</p> <p>また、地域における支援については、引き続き、生活支援コーディネーターを中心として、地域ニーズの把握と支援の体制構築に努めてまいります。</p>
<p>家族介護者の不安を感じる介護は「排泄」が45%前後、「認知症への対応」が39.8%となっている。これらは単に不安を感じるだけでなく嫌悪感を感じる介護です。ここから生じる人間関係の苦しさは大きいだろう。虐待や親族間トラブルが発生するリスクの上昇が懸念される場です。虐待防止の権利擁護に関する普及、啓発の推進もだけど、虐待する人の心のいたわりを提供することが先であってもよいと思います。</p>	<p>市や高齢者支援センターでは、高齢者虐待の事例に対応する際、被虐待者だけでなく、介護者への支援も併せて行っています。今後も、介護者・要介護者の双方に寄り添った支援を継続してまいります。</p>

<p>高齢者の問題を考えるとき、どうしても「ヒトの手」の必要性を抜きにはできなく、寄り合い世帯が多く、地縁、血縁の薄い町田市としてはデジタル機器の導入を考えていくことは解決の一つの方向ではないかと思えます。抱き上げる力のない人でも、機器の操作をするスキルがあれば介護に関わる余地が多くなると思えます。</p>	<p>東京都による事業者への補助制度として、介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化など、介護環境の改善に資する次世代介護機器の導入に必要な経費の一部を補助するものがあります。これにより、ロボット介護機器の導入を促進しています。</p> <p>また、市では介護保険事業所におけるロボット・ICT活用の事例研究や展示会等を通し、介護現場におけるロボット・ICTの活用を推進してまいります。</p>
--	--